

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立松山北高等学校中島分校

学校番号 23

<平成22年度最終報告>

教育方針	自律・進取・敬愛を重んじ、豊かな人間性と社会性を養うとともに、個性や能力を生かす教育の充実を目指し、平和な国家社会に貢献できる国際感覚豊かな人間を育成する。	重点目標	社会貢献できる人材の育成 — 感謝から自立と共生 — 1 わかる授業、小集団指導、個に応じる指導などを通して、基礎・基本の定着を図る。 2 あらゆる機会を通じて生徒理解を深め、個性の発見と伸長に努める。 3 多くの体験活動の実施、部活動の充実により、豊かな人間性と社会性の育成に努める。 4 基本的生活習慣の確立と自律心の育成に努める。 5 早期の進路指導と個別指導の徹底により、目的意識の高揚、進路実現に努める。
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	教育課程の充実 (特色ある学校づくり)	生徒の適性・能力・進路に応じた教育課程の編成を促進する。	A	教育課程委員会で内容を協議し、改善を加えて実施した。	新編成して後の成果を分析し、多様な生徒の事態に対応できるように努める。
		地域等での奉仕活動を年間8回以上実施する。	A	全ての生徒が目標達成率100%で、地域交流や地域貢献ができた。	今年度の活動を継続するとともに、新しい企画も検討していく。
	保護者・地域との連携	学校案内、分校通信、ホームページ、学校新聞、生徒会誌「み津ばち」などで教育活動の紹介発信に努める。	B	より分かり易く、読み易くなるよう具体的な情報や実体験者の話を入れるなどの改良を行うことができた。	ホームページの更新頻度が若干、昨年よりも低くなったため、校内の情報をより多く集め発信していきたい。
		PTA 活動(総会・研修旅行・レクレーション等)への参加者増を図る。	B	奉仕作業の人数は増えたが、研修旅行は減った。レクレーションは変わらずであった。	もう少し魅力ある研修旅行を企画、立案していきたい。
危機管理	学校安全に関する研修や点検を適時行い、事故の未然防止や対応に努める。	B	危険への未然防止を日ごろから意識し、防災計画を立て訓練を適切に行った。	危機管理研修の内容をさらに充実させ、効果的な対応ができるよう努める。	
学習指導	教科指導の充実	個に応じた指導の工夫・実践により、生徒にわかる喜びと意欲を持たせる。	B	少人数指導や個別指導で、授業が分かると思う生徒は8割近くに増えている。	生徒の実態に合う授業になるように、学習指導の工夫や研究に努める。
		少人数のよさを生かし基礎・基本の定着を図る。	B	生徒の実態に即した指導を行い、基礎学力の定着を図った。	個々の生徒の合った授業の工夫・改善を通して理解力や学習意欲を高める。
	家庭学習の充実	個に応じた課題を与えるなどして、生徒一人一人自分で学習に取り組む姿勢を養う。	C	習熟度に応じた課題を出したり、小テストの工夫を行った。	効果的な学習方法を提示し、一人一人の学力に合わせた指導を実践する。
		学習時間調査を計画的に実施し、一日平均2時間以上の学習時間を確保させる。	C	個別指導は行えたが、目標の学習時間の確保はできなかった。	課題の工夫や放課後、長期休業中の自学自習で学習習慣を身に付けさせる。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	あいさつができる生徒100%を目指す。	C	生徒の自己評価は70%であり、十分に達成できていない。	生徒が自ら率先して行えるよう、教職員が声掛けを行う。
		身だしなみが守れる生徒100%を目指す。	C	生徒の自己評価は70%であり、十分に達成できていない。	教職員の意識を徹底し、適時指導を行うよう努める。
		清掃にまじめに取り組める生徒100%を目指す。	B	自己評価は78%と目標には届かないが、よい取り組みであった。	分担場所の工夫とともに、環境美化に対する意識の高揚を図る。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の指導により、年間出席率 95 % 以上を目指す。	B	長期欠席者を含む年間出席率の三学年平均は約 93 % であった。	教職員が声掛けを行い、さらなる意識付けを行う。
	個人面接の充実	面接を一人年間 6 回以上行い、生徒理解に努める。	B	学期末や進路面談、個別の面談でほぼ達成できている。	個人面談を必要に応じて増やし、その質の向上にも努める。
	交通安全指導の充実	登下校時のマナーや交通安全指導を通して、交通事故の防止に努める。	B	事故はなかった。公共交通機関の利用の仕方が一部適切ではなかった	現在の指導を継続する中で、交通ルール・マナーの遵守を徹底する。
	教育相談・特別支援教育の充実	教職員の連携と情報の共有を図り、生徒一人一人の健全育成に努める。	B	生徒が多様化にたいして教職員が対応し切れていない部分があった。	保護者や関係機関との連携を深めながら指導を行う。
進路指導	進路指導委員会の充実	進路指導委員会を全学年、年 3 回以上実施し、早期に適切な進路指導を行う。	B	年間計画にしたがって適切に実施し、教職員間の意識統一を図ることができた。	委員会における審議事項を精選し、最大限の成果を得られるよう改善する。
	進学・就職指導の充実	生徒の進路希望や実態に基づいた個人指導により学力の向上を図る。	B	課外補習を充実させ、とりわけ 3 年生の進路実現につなげることができた。	基礎的学力が不足している生徒に対し、継続的な支援の充実を図る。
		全教員が協力して、面接や論文の必要な生徒に対して計画的な指導を行う。	C	量的には確保したが、計画性に乏しく、特定の教職員に負担が集中した。	学校全体のバランスを考え、戦略的かつ効率的な指導計画を早期に立案する。
		進学希望者の進学 100 % を目指す。	A	目標を達成することができた。	すべての生徒の第一志望への進学達成を目指し、3 年間を見据えた指導を行う。
	就職希望者の就職 100 % を目指す。	C	就職未内定のまま 2 名の生徒が卒業し、目標を達成することができなかった。	就職の現実を教職員・生徒共に理解し、日々の学習指導、生活指導を徹底する。	
特別活動	特別活動等の充実	生徒一人一人に役割を与え、責任感や充実感・達成感を持たせる。	B	多くの生徒が、自分の役割に対して意欲と責任感を持って取り組んだ。	生徒が充実感・達成感を感じる活動になるよう工夫する。
		学校行事、生徒会活動、部活動等を通して心身を鍛えよりよい人間関係づくりを行う。	B	様々な活動を通して、多くの生徒に集団としての意識が高まった。	支援体制を整え、集団に打ち解けにくい生徒のケアに努める。
その他	人権・同和教育の充実	学校の教育活動全体を通して、人権意識の高揚を図る。	C	年間計画にしたがって適切に実施されたが、現職教育が十分に行われなかった。	教職員研修を充実させ、地域との連携を強化し、教育活動を総合的に充実させる。
		人権だよりの発行回数や内容の充実を図る。	C	年 3 回のみでの発行に終わり、目標を達成できなかった。	人権委員会の活動機会を増やし、発行回数や内容を充実させる。
	校内美化・環境整備の推進	生徒個々に役割を与え、校内美化意識の高揚に努め校内美化を図る。	B	清掃担当場所の範囲が広く、教員の目も行き届かないため不十分であった。	分担場所の工夫とともに、環境美化に対する意識の高揚を図る。
		生徒・教職員による芝生・校内作業を毎月実施する。	B	天候による中止や延期があったが、ほぼ予定通り実施した。	生徒の取り組み方に差が生じないよう意識の喚起に努める。
生徒の健康及び安全管理	保健だよりを充実させ、生徒の健康や安全について意識の高揚を図る。	A	保健だよりの適切な情報提供や講話等で、健康・安全の意識が高まった。	生徒の健康と安全のため、今後も継続して行う。	

※評価は 5 段階（A：十分に成果があった B：成果があった C：ふつう D：少しの成果があった E：成果がなかった）とする。